



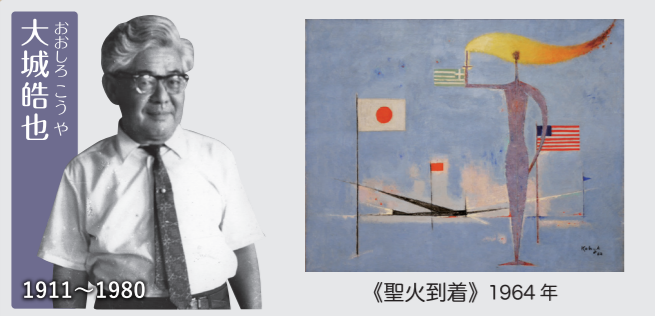
**名渡山愛順** なごやまあいしゆん  
1906～1970  
那覇市松山生まれ（東京美術学校）  
琉装の女性を題材に描いた絵などで知られています。情熱をもって  
沖縄の文化を愛し、戦後の紅型や琉球舞踊の復興にも尽力しました。



**具志堅以徳** くしけんいとく  
1912～2009  
那覇市若狹生まれ  
美術の先生としても活躍しました。子供達に親しまれた画家でした。



**屋部憲** やぶけん  
1894～1952  
那覇市首里山川町生まれ  
画家で書道家。戦後美術運動の先駆けて唐手(空手)家でもありました。



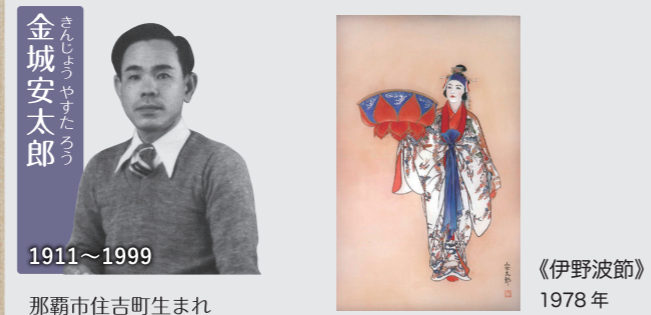
**大城皓也** おあしひろや  
1911～1980  
那覇市辻町生まれ（東京美術学校）  
神話や沖縄の文化・神事(シンジ)をテーマとした作品を描いた画家です。



**玉那覇正吉** たまなはせいきち  
1918～1984  
那覇市久米生まれ（東京美術学校彫刻科）  
画家でもあり、彫刻家としても活躍しました。



**末吉安久** すげやすひさ  
1904～1981  
那覇市首里儀保町生まれ  
紅型作家でもあり、首里高校染織科の設立に尽くした画家です。



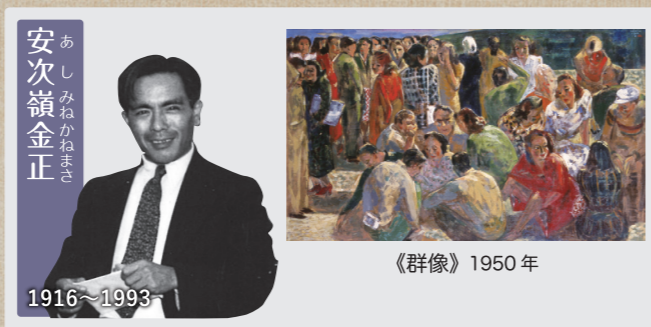
**金城安太郎** きんじょうやすたろう  
1911～1999  
那覇市住吉町生まれ  
本や新聞連載小説の挿絵もたくさん手がけました。  
「ニシムイ」で唯一日本画を描いていた画家です。



**山元恵一** やまもとけいいち  
1913～1977  
那覇市西生まれ（東京美術学校油画科）  
抽象画を中心に描いた画家です。山元は沖縄画壇の中でのシュルレアリスムの草分け的存在として活躍しました。



**安谷屋正義** あだちやまさよし  
1921～1967  
東京都生まれ（東京美術学校工芸科図案部）  
戦後沖縄美術のリーダー的存在になる。



**安次嶺金正** あしみねかねまさ  
1916～1993  
名護市生まれ（東京美術学校油画科）  
緑を多く描き続けた画家です。

ニシムイ美術村の10人の画家たち



# ニシムイ美術村

沖縄美術復興のあゆみ

現在の那覇市首里儀保町（儀保駅周辺）に「ニシムイ美術村」という場所がありました。  
戦後すぐ、1948年に沖縄の美術家が集まってそこに美術村を作りました。  
私たちが住む沖縄の美術を知る上で、重要なキーワードとなる  
「ニシムイ美術村」について学んでいきたいと思ひます。

第二次世界大戦終結後の1945年、人々は捕虜になり沖縄は米軍の統治下におかれます。米軍政府の諮問機関として沖縄諮詢会(しじゅんかい)が発足しました。今の県庁にあたる沖縄民政府(米軍の管理下)の文化部に芸術課(美術係・芸能係)がおかれました。そこで収容所にいた画家たちは美術技官として雇われたのです。彼らのほとんどが東京の美術学校出身で、沖縄民政府から画材の提供を受け、求めに応じてクリスマス・カードの制作や、絵画展を開催しました。

ニシムイを知ってるかい?



ニシムイとは?

当時の地名で、現在の那覇市首里儀保町(儀保駅周辺)です。

ここに、戦後すぐの1948年に沖縄の美術家が集まって、美術村を作りました。

戦争で荒れ果てた沖縄の美術・文化復興の拠点となった場所です。北の森と書いてニシムイと読んでいます。

ニシムイ北森

方言では「北」は「ニシ」、「森」は「ムイ」と言います。



ニシムイのコンセット。コンセットとは、米軍の組み立て式かまぼこ型兵舎のこと。ニシムイ村ではアトリエとして利用した。

米軍人との交流

米軍人へ絵を売り生計を立てるとい事は美術家達の理想郷「ニシムイ美術村」を支える重要な要素でした。美術家たちは、依頼された絵とタバコを交換する、いわゆる物々交換をしていました。この貰ったタバコを売って自分達の生活資金に替えていったのです。米軍人は絵を依頼して報酬をくれる良いお客さんであり、彼らの芸術の良き理解者でもありました。

■画家たちの思い

戦後の貧しい時代にアメリカ人に絵を売ったりしながらも画家としての夢は捨てなかったのです。

■国境を超えた交流

ニシムイ美術村では絵画を通してアメリカ人と心を通わせていた、これこそ芸術の力!まさにアートは国境もなく言葉も必要とらなかったのです。



1947 美術展覧会(北谷キャンプ桑江、米軍地区工兵隊・琉球列島米軍政府共催)開催。

山田真山・大城皓也・山元恵一・名渡山愛順・安谷屋正義・具志堅以徳・川平朝申・榎本正治・山里将聖・長嶺将秀・安仁屋政栄・金城盛英・屋部憲らが参加

名渡山愛順・屋部憲・山元恵一・大城皓也・金城安太郎・榎本正治ら「沖縄美術家協会」を結成する(会長・屋部)。石川市東恩納の文化部内に常設ギャラリーおよびアトリエを設置し、共同使用

5月に召集解除をうけた安次嶺金正が沖縄帰還12月、前年設立された首里市立郷土博物館が首里博物館に改称

1948 石川市東恩納在住の画家ら、那覇に美術村をつくりたい旨、米軍に要請(3月、許可)

首里儀保町ニシムイ(北森)に石川市から名渡山愛順・屋部憲・山元恵一・大城皓也・金城安太郎・玉那覇正吉・具志堅以徳・安谷屋正義ら8人の画家が移住を開始。6月末までに移転完了、「美術村」を形成

リビー台風の襲来により、ニシムイのアトリエ倒壊、ギャラリーの破壊損傷などの被害にあう

1949 安谷屋正義、リビー台風で倒壊したアトリエを再建する

第1回沖縄美術展(のち「沖展」)開催(那覇市崇元寺前・沖縄タイムス社本館)。創設運営委員は大城皓也・山元恵一・大嶺政寛・名渡山愛順

「沖縄美術家連盟」誕生。名渡山愛順が監事に就任する。7月25日、ニシムイ美術村内で第1回幹事会を開催

大型台風グローリアの襲来により、ニシムイのアトリエ群に被害続出。2棟あったギャラリーは全壊

『沖縄ヘラルド』創刊。山元恵一、記者として勤務

1950 絵画同人「五人展」結成(玉那覇正吉・安次嶺金正・安谷屋正義・金城安太郎・具志堅以徳)

第1回五人展(壺屋小学校)を開催(～1954年7月第9回展)

琉球大学(初代学長・志喜屋孝信)、首里城跡に開学。美術科開設

第2回沖縄美術展(二中同窓会館/現那覇高校同窓会館)。審査員:名渡山愛順・大城皓也・大嶺政寛・山元恵一・山田真山。五人展メンバー、沖縄美術展の審査内容に抗議。制度の見直しを求める

この年、山元恵一、琉球石灰岩による石積みのアトリエをニシムイに新築(設計・仲座久雄事務所)

アートを通して国境をこえた交流があったのね。



1951 安谷屋正義・玉那覇正吉・安次嶺金正らが壺屋にて金城次郎・新垣栄三郎の指導のもと陶芸制作に励む

1953 首里博物館、東恩納博物館(石川市)を吸収合併し、首里当蔵・龍潭池畔に移転  
大嶺政寛個展(那覇文化情報センター)開催

1955 第7回沖展(壺屋小学校)で南風原朝光コレクション20点、本土画壇賛助出品17点が展示される。島田寛平、美術教育功労賞。沖縄芸術祭が開催され、ゴッホ劇「炎の人」(三好十郎原作、南風原朝光演出)上演。安次嶺金正がゴッホ役、玉那覇正吉がゴーギャン役

沖縄民政府立首里博物館、琉球政府立博物館と改称

1957 第1回びびよ会展(沖縄タイムスホール)開催。アマチュア絵画グループ30余人参加(特別会員・大城皓也)

1961 南風原朝光、那覇市崇元寺で交通事故、翌年3月30日死亡(享年58歳)

1963 この年、具志堅以徳、那覇市若狭に「工房いとく」を開く

1964 安谷屋正義原画製作のオリンピック東京大会沖縄聖火リレー記念切手発行

東京から帰郷した染織家の大城志津子が、ニシムイに大城織物工房を開設

1965 第17回沖展(壺屋小学校)会場で美術館建設のための署名活動

この年、名渡山愛順、ニシムイの画室を那覇松山に建てた名渡山ビルに移す

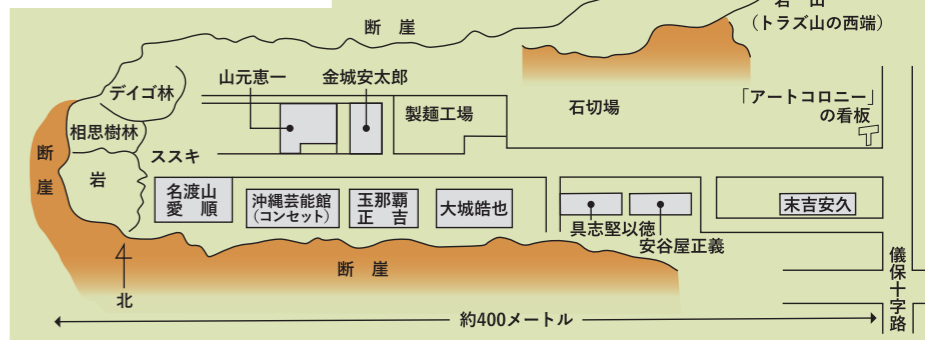
1966 琉球政府立博物館新館開館記念・現代美術展、尚家所蔵文化財も特別陳列

1967 安谷屋正義急逝(享年46歳)

1970 名渡山愛順逝去(享年64歳)

1972 この年、沖縄臨時国体開催(昭和48)記念事業の一つであった環状2号線道路建設工事で、美術村の一部が撤去。美術家たちも分散しニシムイ美術村は24年の幕を閉じた

「ニシムイ」MAP(1950年頃)



いろんなところにニシムイの影響が残っているんだね～



「ニシムイ」の画家たちの功績

- 琉球切手
- 慰霊の碑の設計・製作
- 旗頭のデザイン・制作
- 各地の獅子作り指導
- 玉陵の保護・修復(第二尚氏王統歴代の墓陵)

琉球切手



今も残っているニシムイ

ニシムイ美術村のあった周辺は、現在閑静な住宅地となっており、2017年那覇市により、ポケットパークが設置された。



2013年に改修された山元恵一アトリエ



ニシムイポケットパーク